

「ひとごと」から「わがこと」へ ～自己をみつめ、語り、人と人がつながる人権学習～

鳴門市人権地域フォーラムは、「ひとごと」から「わがこと」へをテーマとして、毎年「学習者が学習者を変えていく人権学習」を実践する場となってきました。

私たちは、一人ひとり、日々、人権課題を抱えながら生きています。また、そこは、多くの人と共に生きている社会でもあります。つまり私たちは、多様な人権課題のなかで生きているということです。その多様な人権課題を「わがこと」としてとらえ、自分に何が問われているのかを考え、行動することが必要なのではないでしょうか。

私たちの家庭・学校・地域社会・職場の人間関係の中に、共感と連帯、信頼と尊敬、互いへの感謝を基軸としたつながりを育んでいくことが、今、私たちに問われています。

このフォーラムでは、パネリストの語りによって、参加者一人ひとりが語り合いの人権学習を創造する主体者としてマイクを握り、自らの思いを語っていききました。

パネリストの語りによって、参加者の皆さんとも語り合い、部落問題を「ひとごと」ではなく、「わがこと」として捉え、部落差別解消への営みを確かなものとしていく人権学習を共に創造していければと思います。

私たちの人権意識を高め、すべての人々の自己実現を可能にする人権のまちづくりをめざしていきましょう。

※2004年度からの語り合いの記録を「T-over人権教育研究所」(t-over.net)に掲載しています。

とき 2025年

8月22日[金]

受付 13:00

開会 13:30

(終了予定 16:30)

ところ

鳴門市役所 (2階大会議室)

鳴門市撫養町南浜字東浜170

コーディネーター 森口 健司 [T-over人権教育研究所・人権子ども塾 共同代表]

パネリスト 吉成 正士 [人権を語り合う中学生交流集会運営委員会事務局]

中野 伸二 [1996年度板野中卒業生・T-over人権教育研究所・人権子ども塾グループ]

広瀬 敬三 [1996年度板野中卒業生・徳島県教育委員会人権教育課指導主事]



2024年鳴門市人権地域フォーラムの様子(鳴門市役所2階大会議室)

●主催/鳴門市・鳴門市教育委員会・鳴門市人権教育推進協議会

●共催/松茂町人権教育推進協議会・北島町人権教育推進協議会・藍住町人権教育推進協議会・板野町人権教育推進協議会・上板町人権教育推進協議会

●後援/徳島県教育委員会・徳島県人権教育研究協議会

「語り合いの人権学習はすべてを変える」

原点は1990年代に実施された板野中学校の全体学習です

鳴潮

昨年春、取材で会った当時40歳のしんじさんは悩んでいた。自分が徳島県内の被差別部落に生まれ育ったことを小学生の娘に言うべきか、言わざるべきか▼しんじさんと長い付き合いの中学教師から先口、便りが届いた。

「夏休み中の中学生人権集会でバネラーを務めた彼は、覚悟を決めて小4の娘を連れてきました」▼しんじさんは大人になって職場で受けた差別や、本首で語り合える友の大切さに加え、娘を連れてきた思いを語った▼集会の夜、しんじさんは教諭にメールを送った。「彼女は楽しかったと言ってくれました。テンション上がりまくりで、ママに今日の出来事を一生懸命伝えていました。部落差別という言葉も出てきました。なんとも言えない瞬間でした。私の生い立ち、この子の生き方が縦に並んだ瞬間です」▼差別のない社会を求め、被差別部落出身の人々が全国水平社を創立して今年で100年。部落差別を主題とする島崎藤村の小説「破戒」が60年ぶりに映画化され、7月に公開された▼部落差別がなくなっても、また新たな差別が生まれる」とのせりふがある。現代社会は部落差別の根絶も成し得ていない上、ネットでの中傷、セクハラ、マイノリティーへの差別…。せりふ通りか、それ以上か。しんじさんの娘さんの未来にまで、そんな社会を持ち越したくない。

2022.9.19

2022年9月19日(月) 徳島新聞

2025年(令和7年)3月21日 金曜日

狭山事件で再審請求中、死去
石川さんの闘い 伝えたい
「人権子ども塾」の中高校生追悼



亡くなった石川一雄さんに黙とうを捧げる人権子ども塾の中高校生ら—徳島市の県教育会館

狭山事件で再審を求め、86歳で亡くなった石川一雄さん(徳島県狭山市)に対し、人権問題を学ぶ徳島県内の中高生が20日、黙とうを捧げた。石川さんは「被差別部落への見込み捜査で」

その自由をさせられた」と無実を訴えていた。中学生は「事件について伝えていきたい」と口々に思いを語った。

中学校教諭の森口健司さん(65)と吉成正士さん(60)が共同代表を務める「T-over 人権教育研究所」の「人権子ども塾」を導く。中高校生は、狭山事件についても学んできた。この日、県教育会館で行われた本年度の開講式で、参加した中高生14人が1分間の黙とうをした。

研究所のアドバイザーで石川さんの妻早智子さん(78)＝徳島市出身＝と旧知の中山敏見さん(60)は「本心に悔しい。差別は利用され、再生産される。その犠牲になったのが石川一雄さんだ」と訴えた。

意見交換では、八万中の奥村明日香さんが「石川さんのことを語り継ぎ、未来へ届けられるようにしたい」と決意を述べた。松茂

中の岩井元輝さんは「石川さんが残したものは大きい。闘ってきた歴史を伝えていく」と話した。

石川さんは11日、誤嚥性肺炎で亡くなった。狭山市では20日、家族葬が営まれた。第3次再審請求は石川さんの死去で審理が打ち切られ、早智子さんが第4次請求を行う。(加治陽)

狭山事件の石川一雄さんが亡くなられた。ワガコトとして、心から哀悼の意を表したい。昨年、複数人から、「鳴門市市民意識調査が届いたが如何なるものかとの相談を受けた。2016年に施行された部落差別解消推進法には、実態調査の有用性を挙げていたが、それに基づくものであろう。ぜひとも県や他市町もワガコトとして実施していただきたい。

世の中には様々な当事者がいる。しかし、「それは私ではない」となっていないだろうか。そうでは

ない。まず私が出すこと。出せるような世の中にしていこう。それが望ましい世の中であり、学校の姿である。

残念ながらこの数年、事務連絡に終始し、自分を語らない教員を何人も見てきた。全くヒトゴトである。残念でならない。それでは子どもは語れないし、語れない。先に相談してきた人物は、「この調査を通して人権作文を書きたい」と応えてきた。調査がワガコトを着実に生んでいる。言いたいことは山ほどあるのである。

2025年3月21日(金) 徳島新聞